

【足立区地域自立支援協議会相談支援部会】会議概要

会 議 名	令和5年度 第1回 【足立区地域自立支援協議会相談支援部会】		
事 務 局	福祉部 障がい福祉センター		
開催年月日	令和5年6月22日（木）		
開催時間	午後2時00分～午後4時00分		
開催場所	障がい福祉センター 5階ホール		
出席者	森 和美 部会長	青木 綾子 委員	中出 敦子 委員
	谷内 秀和 委員	片桐 愛子 委員	小杉 信之 委員
	石井 達雄 委員	関口 久美 委員	山本 克広 委員
	オブザーバ 田口 由香	オブザーバ 末永 健	
欠席者	山田 尚美 委員		
会議次第	1 開会 障がい福祉センター所長挨拶 自己紹介 2 議事 相談支援の立ち位置から見える足立区の地域課題について（意見交換） 3 事務連絡		
資料	配布資料 令和5年度足立区地域自立支援協議会第1回相談支援部会 【資料1】 令和5年度自立支援協議会相談支援部会名簿 【資料2】 足立区地域自立支援協議会の目的・機能 【資料3】 令和5年度足立区地域自立支援協議会相談支援部会活動計画書 【資料4】 足立区障がい者ケアマネジメント評価会議について 【資料5】 令和4年度第4回足立区地域自立支援協議会議事録 【資料6】 足立区地域自立支援協議会本会議専門部会の協議の進行について 【資料7】 事業所マップ 【資料8】 足立区の相談先一覧		
その他	公開状況：公開 傍聴：2人		

様式第2号（第3条関係）

（協議経過）

1 障がい福祉センター所長挨拶

○佐々木事務局員

皆さん、こんにちは。定刻になりましたので、今年度第1回目の相談支援部会を開催したいと思います。本日はお集まりいただきましてありがとうございます。それでは、開催に先立ちまして、障がい福祉センター所長より挨拶させていただきます。

○山本所長

皆様こんにちは。障がい福祉センターあしすと所長山本でございます。本日は足立区地域自立支援協議会第1回相談支援部会の方に天候のすぐれない中ですが、お越しいただきありがとうございます。去る6月1日に本会議がございまして、その中でこの部会の活動計画を森部会長の方から報告いただき、その第1回目となります。本日も活発な議論等をどうぞよろしくお願いいたします。

○佐々木事務局員

ありがとうございました。それでは、議事に入る前に、今年度委員に若干の変更がありましたので、顔合わせを含めて、それぞれから自己紹介をお願いしたいと思います。それでは谷内さんのところから順にお願いします。

～この後各自自己紹介～

～本日の資料の確認～

それでは早速議事の方に移っていきます。今年も議事録を作成するためにマイクを通してお話をさせていただきたいと思います。ICレコーダー等で議事を起こしていく作業をしますので発言の前にはお名前を言っていただいてから、ご発言していただきたいと思いますのでどうぞ協力をお願いいたします。

ここからは森部会長の方にバトンタッチしたいと思います。よろしくお願いいたします。

2 議事

○森部会長

それでは改めまして、あだちの里相談支援センターの森でございます。よろしくお願いいたします。既に6月になっておりまして、昨年度に引き続きの内容を今年度も進めたいと思っております。昨年度から変わられた方もいらっしゃいますし、ちょっと間があいているということもありますので、本日はまず、昨年度の振り返りという時間を取らせていただきます。昨年は年4回の開催をさせていただいていたかと思いますが、今年度は3回とお伺いしておりますので、そのことについても少しご説明が聞けたらありがたいと思っております。その後、相談支援の立ち位置から見える足立区の地域課題について皆さんからのご意見をいただければと思っておりますが、そのような進め方でよろしいでしょうか。それではまず、事務局の方から昨年までの流れを説明していただいてもよろしいでしょうか。

○佐々木事務局員

はい。事務局の佐々木の方から昨年度の取り組みの思い出、振り返りをさせていただきながら今年の活動につなげていきたいと思っております。

昨年度は「相談支援の立ち位置から見える足立区の地域課題について」をテーマに年4回実施し、意見交換を重ねてきました。

第1回目2回目の部会ではそれぞれの委員さんの立ち位置で日頃の相談支援活動をとおして感じている足立区の地域課題を伺いまし

た。

皆さんからの意見としましては、「相談支援体制について」「支給決定及びサービス開始について」「当事者・ご家族の高齢化について」「体験の機会の確保について」「緊急時の対応」など、様々な視点から課題として感じていることを挙げていただいて、その一つひとつの項目について意見交換を行ってきました。その中で、足立区には多くの社会資源があるけれどもうまく活用できていないことが分かりました。一つひとつの情報は広く発信はされているのですが、なかなかひとまとめになっているものを見つけづらいなどの話もあって、様々な社会資源情報をうまく活用できる情報整理が必要であろうとのまとめになったと思います。

また、実際の相談場面において相談者と社会資源をつなぐ具体的な事例についての情報交換もできると良いとの意見もあったというところでは、第3回目のところそのあたりの話をしています。実際には昨年12月22日に実施しました。ここでは、作成した資料を確認しながら事例の共有をしました。事例については本日お見せできないのですが、22日にはプロジェクターの画面を見させていただきたいのですが、このような表を作って皆さんと意見交換をしたということになります。過去に資料として配っているため今日は配布しておりませんので画面を見ながらの思い出しをお願いします。この第3回のところでは、相談にのる我々が一人で抱えきれなくなったとき、あるいは抱えきれなくなる前にうまくつながれる先を知っておくことも大切であるとのまとめをしています。

第4回目は2月22日に実施しておりますけれども、この時にはライフステージごとの社会資源一覧の修正したものを作り、それぞれの時期にどういうところでどのようなサー

ビスが受けられるのかを話し合い、意見交換をしたということになります。

この時には自分一人だけが分かっていたら良いということではなく、皆さんが同じ情報をもってその情報をうまく提供できるようにしていきたい。寄り添い支援はそのまま継続しながら、より多くの情報の中からより適切な資源を案内できるようなツールづくりを考えていきたいと思います。

4回目の時に使用したライフステージの表と、このA3縦の表ですね。配布資料は細かくて何が書いてあるか分からないくらい小さい文字のものでお配りしました。この部分をもっと少し見やすい形にできるとより良いのではないかとこの最後の回で話をしました。今日はこの続きとして、どうすればもう少し見やすいものができるのかを考えながら進めていくことになると思います。

振り返り関係はこのような感じでよろしいでしょうか。

○森部会長

はい。ありがとうございました。昨年のまとめと振り返りを少ししていただきました。これにつなげて今年度の取り組みというところですけれども、資料3でお配りしております、令和5年度の活動計画をご覧いただきたいと思います。

今年度も昨年度と同様の目的で、障がい児・者が地域で安心・安全な生活を送るために必要な、相談支援に関する諸課題を検討・整理し相談支援体制をより充実させるとともにその仕組みづくり等について検討するというふうになっています。今年度の重点課題として3つ挙げさせていただいております。

「(1) 相談支援の視点から足立区の地域の強みと課題を抽出する。(2) 相談支援体制

や機能充実のため、各種団体との連携のあり方を協議する。(3) 相談支援従事者の資質向上の取り組みについて協議する。」というところでこちらも昨年度に引き続きとなっております。本年度は3回というところで先ほどお伝えしましたが本日も第1回目を開催させていただいております。第2回目を9月21日、第3回目を12月13日でこまめに成果物を作成していけたらと思います。

本日の議題になるのですが改めて今日いただいた資料の中でまずは昨年のもからブラッシュアップされた資料についての説明を事務局からしていただけるとありがたいのですが。

○佐々木事務局員

はい。では引き続きまして配布資料の説明をさせていただきたいと思います。今年度はより多くの情報をうまく活用するにはどのようなツールが必要かを考え形にしていくことが目標ということで、本日配布しましたA3横表を見ていただきたいと思います。この表は、昨年度第4回目、今画面(プロジェクター)に映しておりますけれども、この表(相談支援体制の一覧)を少し変化させたものです。分野等のふり直しや項目の追加、省略したのもあるため同じものに見えないかもしれません。情報量が非常に多いというところではなかなか紙ベースですべてを表すことが難しいというのが現状到達しているところです。紙でお配りしているものを活用するにあたっては、パソコンの使用を想定して作りこみをさせていただいております。

ご相談の内容によっては、こういったツールが全く必要なく、ご自身の範囲の中でできるものももちろんあると思います。相談を受けたときに、この分野は分からないということがあった時に活用していただけるようなもの

のができあがると良いと思っています。今皆さんにお配りしているものを画面に大きく映しています。相談を受けたときにその内容を見定めていくためのものと思っていただければと思います。例えばですが、手当の関係についてどういうものがあったかと思ったときに紙だと量がありどこにあったかわかりにくいのですが、このように展開していただくと、関係するものを絞り込むことができます。

～プロジェクターを通して使い方の説明～

このように、相談に応じていく中で、制度や資源につなげたいときや情報を提供したい時などに活用できるよう、ジャンルを絞り込みながら進めていくツールとしてイメージしました。

現状では行政系のものが圧倒的に多い状況になっています。現実的に地域で安心して暮らしていくためにはインフォーマルな情報もたくさん知っておくことが重要です。本日の皆さんとの意見交換によってどんどん追加し、より実効性のあるものに更新したい考えです。ぜひ多くのインフォーマルな情報を本日の部会で発信していただければと思います。以上になります。

○森部会長

はい。ありがとうございます。今日配っていただいているのでこれから中身を見ていただいて、ご感想とか、インフォーマルな資源についてのご意見など、みなさんからのお話を伺いたいと思います。

その前に、連絡先のところに、URLが入っているところがありますが、これはどういう内容でしょうか。

○佐々木事務局員

はい。これは、連絡先が複数あるケースに

なります。例えば援護係とか、保健センターなど、地域で所管が違う場合は、それぞれを書き込むと見づらくなるので、URL表記にすることで、クリックすると、担当部署の連絡先に飛ぶようにしています。

～プロジェクターを通して操作説明～

単独で電話番号が書かれているところは、ダイレクトに連絡いただければよいようにしています。よろしいでしょうか。

○森部会長

ありがとうございます。

そろそろ見終わったくらいでしょうか。

○石井委員

発言してよいですか。大変よくできているとは思いますが私は初めて参加させていただきましたが経緯は学習してきました。国のほうがこういう会議を持ちなさい、こういうような分科会を持ちなさい、ということで発足していると思うのですけれども、障がいのある方、ご家族の方を含めて健常者と同じようにということだと思のですよ。私は民生委員を経験していて高齢者の方と比較して考えているのですけれども、地域包括センターというのが区に20何か所あります。65歳以上を対象に。そこでは情報の窓口が一本で、あらゆるほとんどのことを受けて止めてくれるのですよ。そこにもっていけば相談が分かるのですね。高齢者の方も障がいのある方も一つの現象ではなくて、ご家族を含めたいろいろな問題をはらんでいるのですね。生活のこと、生活費のこと、地域での生活をどうするのか、すごくよいことが書いてあるのだけど、ここにも「足立区障がい福祉関連計画のためのアンケート調査報告書」というアンケートがあります。60%の人が、どこへ相談してよいかわからないと言うのですよ。とい

うことは細分化していくら資料を作っていたとしても私たちからすれば高齢者の方は地域包括センターで受け止めてくれる、障がいのある方は縦割りになってしまうから、障がいのある方が、忙しいのに、自分の生活もあるのに、中には親の介護もあるのに…、そういう中でパソコンを使ってできますか。それでそこへ電話をすれば、私も何回もあるのですが、「うちではないです」と言われるのですよ。具体的に名前が分からないと相談に乗ってくれない。私の民生委委員の12年間の中に2事例あります。65歳以下で成人している人、20代と30代の人個人情報もあるので概要のみ言いますけれど、その人が大きな声を出したり、公共施設に行ってエレベーターで遊んだり、住民の方のドアを破損したり、そういう問題を起こしたのですね。騒音もそうです。一般の皆さんは生活していて、地域の中で生活するという事は騒音とかごみ捨てとか、野良猫の餌やりとかね、そういういろんな問題を抱えて生活しているのです。障がいのある方も高齢の方も、駐車場の問題もそうですけれども、そういったときに2つありまして、そういう人から私は相談を受けるのですけれどもそういう話をどこもっていったらよいのかというのが分からない。もう一つは、相談先が分からないということは、相談を障がいのある方のご家族の方がどこへ相談したらよいかわからないからトータルな窓口が欲しいと、このアンケートでは、言っているわけです。細分化しても家庭の中でいろいろな問題を抱えているから相談したいのということなのです。

結局良いものを作って事務局は苦労しているけれど、少しずつれているのではないかとというのが1点。これが障がいのある方がどこへ相談したらよいか、トータルな窓口がどこかの問題。おそらく基幹相談支援センターであ

るあしすとということです。もう一つ、「地域で地域で」というけれど、地域の人が困った時にどこへ相談するのが良いのか。足立区のコールセンターにかけてみたら、騒音の部分は東京都の住宅局に電話をしてくれと。そういう回答を得たのですがこれでは全然だめだと思っています。ということで、相談先が分からない、地域の人が障がい者も含めて生活している中でどこに聞けばよいのかわからないというのが一つ目。二つ目がこれからあしすとの機能が強化されて総合的な窓口になったらそれは良いと思うのです。あとは保健所について、保健所と福祉部の情報が繋がっていないから、そこで保健師さんの保健所にかかる精神衛生関係の障がい者については一切、民生委員が相談しても情報はくれないのです。これは保健所で何とか改めてもらいたいと思います。民生委員と保健所はあまりつながりがないのです。すみません。長くなってしまっ

○佐々木事務局員

ありがとうございます。今回ここで提案させていただいている足立区の資源の表は、皆さんのが地域の相談窓口として日常的に相談を受けられるときに、なるべく困らないようなツールが必要という話し合いの中から手掛けているものです。相談者に直接開示するものではないということをご理解いただきたいと思います。

障がい福祉センターあしすとが基幹相談支援センターというところでは、現状でも多くの生活に関する相談をお受けしているところでもあります。そうはいつでも100%充足しているわけではありませんし、より一層強化していきたいというところはあります。足立区は大変広いので、障がい福祉センターが基幹としてやるとなってもやはり地域で起

こっていること、お困りになったことということが身近な相談先の方につながっていくところでは、やはり皆さんと一緒に一つひとつの相談を受けて、共有をしてどういうふう支援していくのが良いのかというところを考えます。ここはそういう場でもありますので、いろいろとより良いご意見をいただきながら進めていただければと思います。よろしくお願いいたします。

○森部会長

はい。ありがとうございます。これまでも今いただいたご意見のようなお話は再三出てきたところです。特に福祉部と衛生部との関わりというところ、窓口は一本にならないか、今事務局の方からも説明があったとおり、なかなか障がい者人口が多い中で、それを取りまとめることが難しいというところと、高齢福祉に比べるとやはり障がい福祉での包括的相談は10年近く遅れているという現状は実際あるのですね。ですので、高齢者の方に関しては包括が整っているのですけれども、ここがやはり障がい分野に関しても同じような基盤を作っていくためにということでの何らかの話し合いをしていただいているという認識だと思うのです。なかなかこの部会が始まった当初も私たちも相談には乗りますが、障がいの分野というのは精神的、身体的、子どもというように専門的な分野があるので、自分たちの領域以外のところは知らなさすぎるというところからこの一表の作成が始まったところです。実際に窓口で相談に来た時にたらいまわしにしないためにどういうふう横とつながっていく道しるべを作っていくかというのがこの部会の役割だと捉えていますので、それに向けての皆さんのご意見をいただきながら、誰が聞いても「それはね」、「それでは私も協力します

ね」、「一緒に行ってみましょうか」ということができるような仕組みを作っていきたいのでご協力いただけたら良いなと思っております。

皆さんからもご意見をいただきたいと思いますが。

○谷内委員

精神障がい者自立支援センターの谷内です。石井さんのおっしゃったことで、どこに相談しても適切なおところにつながらないのでという課題は、ずっと続いていると改めて感じました。どういった仕組みづくりをどこから手掛ければよいかというところもなかなか着手できていないことについて、改めて思ったのですけれども、表自体はやはり行政中心のもので、活用の仕方によっては有効になるのではないかと思うのですね。ただ、それをどう活用するかはそれを持った人間の意識次第です。普段からそれを活用したいと思っていて、有効なものは皆さんの手元にあるのに、そこに気づいていない。有効に活用できている事例を知らないことや、それぞれのキャリアややり方によって相談の事業の展開をされており、相談の質を高めていくということがなかなか難しく、課題であるということは昨年度も話し合いの中で感じていました。今年度はさらに、足立区にはこういった社会資源がたくさんあるということが昨年皆さんと共有ができたのでそれをどう現場の方々だったり、地域の方々に伝えていって活用できるようにしようかということが今年度の実際の取り組みになると思っています。ですのでこの資料についてもそうですし、後で出てくるカラー刷りのものも含めて期待していますし、これをどういうふうな形にして普段活用できる形にしていくためには現場レベルでの情報共有は必要になってくると思いますし、

部会のみで話し合っても実際には展開はされないでしょうから、現場の方々、地域の方々にこれを示して行って意見をいただいでいく、どんどんブラッシュアップしたものを形にしていく、そういった地道なところを手掛けていくしかないと考えているところです。

○森部会長

はい。ありがとうございます。インフォーマルな資源があればご紹介いただいてもよろしいでしょうか。

○谷内委員

事業所としてかかわったものとしては、障がいのある方が地域で住まいを見つけられない、行政のサービスもつながりにくいといったときに、民間の団体で住まい探しとか障がい高齢者の方々のサポートをしている事業者がたまたま見つかったことで活用させていただいていることが現在もあります。他の事業所から相談があればお伝えして使えるようにということ意識しているところではあります。

○森部会長

はい。ありがとうございます。それでは片桐さんお願いします。

○片桐委員

家族会の片桐です。やはり当事者の方たちからするとこういう分かりやすい表があることでとても相談しやすいと思います。どこに何を相談してよいかわからないことが家族会で皆がいろいろ困ったことを話しあいながら、「ここが良いのよ」とか教え合う家族会として助けあっていくためにはこの資料はとても良いと思います。これから利用させていただきたいと思います。

○森部会長

はい。ありがとうございます。早速活用していただけるということですね。

それでは小杉さんお願いします。

○小杉委員

小杉です。資料ありがとうございます。資料をどう使うかだと思うのですが、データとしてはこういうのが必要だろうと思いますが、例えばこの表の訪問看護とか訪問リハを見たときに、それが自分にとって必要だと思っている方は「訪問看護」と検索するので、このデータは使わないと思うのですよね。要は、「こんな困りごとがあるのです」という場面があって、実は、それには訪問看護や訪問リハが有効・必要なのではないかと、自分にとって何が重要かということ、自分にとって何が重要かということ、自分がそもそもわからない方が、必要なものについて「これだけ商品がありますよ」、と言われても、「何が重要なのだろう」というのがあるので、コンシェルジュ的なサービスが必要と考えたときに、検索のかけ方を意識したつくりにししないと、結局、「作りましたが使われませんでした」という感じになり、もったいないと思うので、その辺について何か良いアイデアがないかと。最近では「困りごとセンター」などチャットで相談できるシステムがあるので、文字列や商品名で検索する形から、もう少し一般的にはやっているものが良いと思いました。

困りごとは1個だけではないですね。例えば、精神障がいの場合ですと、「発病した」ということによって、お仕事を辞めなくてはいけなくなったり、通院しようと思っても通院は本人が行きたくないということがおこったりして、問題自体が単一ではなく、複合型の相談になってしまっています。こうい

うときに相談に対処するというのは、これからはAIとかなのしょうけれど、検索サイトで単語で検索するだけではなかなか難しいような気がします。そういうのもあって相談支援の質の向上、私たちの支援の質の向上も求められているのではないかと思いますし、システムとしてもやはり基幹相談支援センターの機能として求められるのではないかとお話を聞いて感じたところです。以上です。

○森部会長

はい。ありがとうございます。インフォーマルな部分というのは何かありますか。後にしますか。

○小杉委員

はい。

○森部会長

では1周回ってからにしましょうか。
石井委員お願いします。

○石井委員

私もこの表は大変よくできているし、そういう経緯で作ったというのは、地図も含めて事務局を大変評価しているのですよ。でも、この表で言えば総合的な相談の窓口、先ほども発言しましたが、生活費の問題と病気の問題、家族の問題を含めた対応ということで、高齢者の分野で恐縮なのですが、地域包括会議は地域包括支援センターと基幹包括支援センターで12年の経験の中で私の事例が2回取り上げられました。そういうふうに横ぐしを持つということ。ヘルパーさんから財産管理人から区の職員から自治会長から私も含めて、当事者以外に7~8人が集まって会議がもたれました。そういう横ぐしを通すことをどこがやってくれるのかというところの

ポイントがないと。そのくらいはこの表に入れておいても良いのではないかというのが一つと、そこまで行けないのであれば、高齢者でいう「地域包括会議」をやる。これは地域包括支援センターが事務局となって、基幹包括支援センターのサポートを得ているいろんな人を集めて、「この人のこの家庭をどう見たらよいのか」、「どうしたらよりよい生活ができるのか」ということの横ぐしを通すのですが、こういった会議を誰がやるのかというのがないと、皆さんそれぞれが一生懸命やってもスピード感はないのではないかというのが1つです。もう1つは、前回の部会でもきちんと発言しているのですから「総合的な窓口で総合的な問題を受け付けます、基幹相談窓口はここです」というのを入れても良いのではないですか。そうすれば、とりあえず困ったらそこへ連絡するという、そこから振り分けられる。この表を見てそう思いました。

○森部会長

はい。ありがとうございます。

課題の内容については後程というところで皆さんからご意見をいただきたいと思えます。それでは青木さんよろしいですか。

○青木委員

はい。青木です。たとえば「子育てガイドブック」や「障がい者のしおり」のように、そこにアクセスできればそれぞれについて調べることができるものが、足立区には、これまでも単独ではたくさんあります。でも、そこにアクセスできないサービスの場合、この問題はどこにアクセスすればよいかわからないというようなことがあった時に、一方で足立区にはたくさんの資源があって、情報を持っている人がいるということが昨年度あたり

からよくわかって来ました。縦と横をつなぐという意味でのこの一覧というのは本当に画期的だと思ひ拝見しました。例えば私たちのところでは、生まれる前のお子さん、おなかに赤ちゃんがいるご家族から、また30歳、40歳位のうめだ・あけぼの学園を卒園して地域で生活しているご本人あるいはそのご家族から、多岐にわたる相談を日々年間受けているのですね。そういう意味ではお子さんの総合相談的な役割を担っている、あるいはお子さんのご家族、ごきょうだい、親族のいろいろな相談を受けるのですね。例えば「通っているお子さんのきょうだいが不登校で、通っているお子さんのおじいちゃんおばあちゃんが精神疾患でどうしたらよいのだろう」という多岐にわたる相談を受けるにあたっては、やはり子どもの障がいのことだけを知っていればよいわけではないのです。相談支援専門員としては、一覧表にアクセスした上で「こんなところに相談すればよい」と、単純にたらいまわしにするのではなく、相談していただいたものの責任としてできる範囲のところまでは相談に乗っていくということが役割だと思ひます。それを踏まえ、これをどう活用していけるかということを考えていけると良いと思ひました。ちなみにうめだ・あけぼの相談支援センターでは、特にうめだ・あけぼの学園に在園しているお子さんの保護者の方の中に計画相談支援で入っているお子さんもいれば、セルフあるいは他区から通っていらっしゃる方もいますが、相談支援専門員を最大限活用していただけたら良いと思ひています。ですが、職員室が離れている関係もあり、総合的な意味で「相談支援センターQ&A」という、相談支援センターでは何ができるのかQ&A方式のもの、こんな質問をされたらこういうふうにご答えるというようなものを作ったのですね。一覧に詳細等というの

が書いてあるのでこういうところにキーワードでピックアップしてヒットしたらその事業内容につながっていくようなそういうイメージの仕組みができるのと良いと今までの話を伺いながら思いました。

○森部会長

はい。ありがとうございます。中出さんお願いします。

○中出委員

はい。あいのお相談センターの中出です。相談先一覧表の活用として、相談支援専門員として普段活用するということでは、私の場合は障がい福祉というところが多くなるとイメージしておりまして、そうなった時に支給関係、手当とかはこの表を活用して問い合わせをすればよいということですからすぐ直結するのですが、例えばサービスに結び付けるときに、居宅の事業所や、訪問リハビリ、訪問診療とか、福祉サービスだけではなくて医療の情報も含めて進めていきます。また、その方が足立区のどこの地域のどこに住んでいるのかとか、どういう時間帯に使いたいのか、どういう障がい特性があるのかということで、やはり1か所ずつあたっていかなければならない作業が出てくるので、ここに書かれている代表番号だとか、一覧表で出てくる中身を結局ひとつずつあたっていかなければならないのはかなり大変なのではないかなということが想定されます。普段相談支援に携わる中でもご家庭からも言われているところで、一覧表をお渡ししても「私がこれを全部当てるのですか」、「見つけるのが大変」と言われますので、難しいでしょうけれども取りまとめというところをつくっていくことができれば。そうなってくると相談支援専門員の資質に関わってくるのが、どれだけ

ネットワークを持っているのかとか、普段からどれだけつながっているかにかかってくると思うのです。何年か携わっていく中でやり取りできる事業所だとか、相談し合える事業所ができてきて、その事業所に相談してみるとかそういう1つずつの関係性から作られてくるところなので、「こういう相談はここへ」というちょっとした相談先というのがあると良いと思いました。訪問リハビリに関してもそうですし、訪問診療を使っている方でも緊急時だとか、「朝になると熱が下がるのに夕方になると上がります」とかそういったときの連絡先、相談先、救急車を呼ぶわけではないし、訪問診療に連絡しても忙しくてつながらなったり対応してもらえなかったりすると、どうしたらよいかとなってくるので、そういったふとした時の相談先をたどっていくようなものができるのと良いと感じました。以上です。

○森部会長

はい。ありがとうございました。

○山本委員

はい。障がい福祉センター山本です。この一覧表につきましての使い勝手は皆さんの意見、感想をいただいておりますので、私からは石井委員ご発言の通り、実際に街中では困っている方々は大勢いらっしゃる中で、この資料を持っている人に結びつかない限りは自分の悩みを解決する手立て、どこに聞けばよいのだろうかということはなかなか進まないわけですので、現状というところでは話題にも出ていましたが障がいの方はあしすととか本庁舎の障がい福祉課とかにご連絡いただいて、そこから場合によっては振り分けということではしか対応できていないところです。それから、どんな質問でも、どんな困りごとで

も受け付けてくれる総合的なものとなると、以前からどういった窓口を作っていくと良いかを検討していますが、まだ、結論は出ていません。そうなりますと障がいを含むいろいろなお困りごとは区役所の代表のコールセンター、これも先ほどたらいまわしということはどうかがいましたが、今対応できているのはコールセンターも含めて、結局振り分けということにはなりませんのが現状です。ただ、これは可能性の話ですけれども、そのコールセンターも、先ほどチャットの話も出ていたけれども、それらが進んできておりますので、例えば区役所のなかでもごみのこととかはチャットボットで答えるようなものが徐々に始まっていますので、もっとこれらが区役所全体に、「私はこんなことに困っている」と言うだけでも答えが出てくるような仕組みが出来上がれば良いですが、悩んでいる方がそういったものを使えるかどうかというのは残ります。ご指摘の通り現状は追いついていないというところはあると思いますが十分お声にはこたえていこうと思っていますのでよろしくをお願いします。

○森部会長

はい。ありがとうございます。
では関口委員をお願いします。

○関口委員

はい。父母の会関口です。

私の身近なところでいえば中出さんとか森さんとかが相談支援センターの支援員さんに個別の支援計画を立てていただいているところです。半年に1度家庭訪問を受けて「困っていることはないですか」とか、「ヘルパーステーションは使いやすいですか」みたいなことを実際に来ていただいて、困りごとを聞いていただいたことをまとめて、区の援護係

にかけ合ってくれて、それで支援の時間数が増えたりするところでは私のなかではうまく回っていると思っています。それがうまくいき3年4年たった時の半年に1度の訪問の時に「こういう資源も使えるのですよ」と教えていただくと家族としては困りごとをうまく流す道になると思います。相談支援事業として受ける方の体制とか対応とかを考えなくてはいけないですけども、実際に使っているとする人は、そんな感じで「困っていることは訪問があったときに話して相談してみる」ということが必要だと感じています。

○森部会長

はい。ありがとうございました。

委員の方はここまでですね。それでは私の方からも少しだけ。私も、本来相談支援専門員がすべての障がい者の方に一人ひとりについていたら、これがうまく活用され、私たち相談支援専門員としては必要な情報を返して差し上げれば、それでことは済むと思うのですよね。横のつながりも私たちがしっかり、今日の部会の委員さんにも相談支援専門員がいらっしやる中で、「私たちの質の向上、イコール、これをうまく活用できて還元されること」というふうにつながっていくと良いと思うのです。ですが、なかなかそこもでききれないところがあって、では、それを基幹であるあしすとが全部やるということはできるわけもなく、どういうふうに足立区にいる6名の主任相談支援専門員を活用しながら一緒に考えていくか、というのがキーになって来ます。後は、主任だけに何とかするように言ってもどうにかならないので、これは、今は別の組織ですけども、「相談支援ネットワーク」の相談支援事業所の皆さんが集まって質の向上を目指している中では、このネットワークも含めどういうふうに活用して、また

還元していく形ができるかを発信していければ、もっと可能性は広がっていくと思います。先ほどから話題になっている縦と横の関係でいうと、高齢の方と比べて一番違うのが青木さんが所属している子どもの部分、赤ちゃんがおなかにいるときからお母さまの相談に応じていき、ライフステージが高齢期に行くまでに0歳から65までの利用者がいらっしゃるのです、これをどういうふうにつないでいくかということです。うちは、今は、下は5歳から上は72歳までいらっしゃるのです、この中で最近お母さまが精神障がい、お子さんは発達障がいのケースが非常に増えていて、衛生部とも福祉部とも、どちらとも関係を図っていかないと、うまく支援を進めていくことができないのですよね。関わってみるとそれぞれの所属の皆さんは一生懸命いろいろなアイデアを出してくださるので、繋がることが一番の支援なのだと思います。

先ほど中出さんから、「とりあえず上からかけてみて」と家族に渡された相談支援事業所の一覧表の話でいうと、まず、あいのわさんから始まって、あけぼのさん、あだちの里となってここでだいたい完結して、その下になかなか流れていかないのです。今回の一覧表がそうならないようにするにはどうしていくかというのが課題の一つかと思います。この1年間をかけてしっかり作っていくのが今年目標だと思います。

では、時間もだいぶ使いましたので、マップについて進みたいと思います。

それではマップはどう使うかの説明をお願いします。

○佐々木事務局員

はい。それでは相談先一覧の方はいったん終了しまして、マップの方に行きたいと思います。今作りこみを始めているのが障害福祉

サービスの事業所が足立区のどこにあるのかを示すものです。皆さんの方にお配りしているものはサービス事業ごとの単体のものです。一番上に相談支援事業所があって、次に自立訓練という形でサービス種類ごとに足立区にどういう散らばり方をしているのかを示した地図になっています。今回はサイズ感的にはA4のサイズに収まるように作成しましたので、事業所同士の距離が近すぎるものは重なっての表示になっているところがあります。少し地図を拡大すると事業所所在地のずれがはっきりしますので重ならずに見せることも画面上ではできます。紙に印刷するうえでの重なりですのでご了承ください。

実際に作ったものをプロジェクターに移しますので見ていただきたいと思います。まずは計画相談のところからいきますが、この地図を作成するにあたっては、●●マップを活用させていただいています。左のガイドに計画相談、就労継続など書かれていますがこのチェックボックスをクリックすると本日皆さんにお配りしたような形で計画相談のもので出てきます。活用としては足立区の中にどういう散らばり方をしているのかを皆さんで確認をしていくとか、この地域には相談支援事業所がないとか極端に少ない、反対にたくさんあるとか、足立区の特徴的なところも併せて見ていけると良いという思いで仮作成しています。配布物としては分かりやすいように1事業所ごとに印刷しましたが、データ上では各事業所を重ねてみることはできます。例えば今画面上では計画相談の事業所を表示していますが、就労の支援もしたいので就労継続Aの事業所が足立区の中のどこにあるのかを見たいとなれば、相談支援の表示はそのままに、就労継続Aのチェックボックスをクリックすると表示されます。こんな感じで情報を重ねてみることはできますので、ご自身の

事業所からの距離間なども分かるのではないのでしょうか。このように複数の事業所を同時に重ねることによって足立区の状況を見ることができます。現在は作り始めたばかりなのですが、ゆくゆくは皆さんの事業所等で見られるように共有したいとの考えはあります。

今回お示ししたものは障害福祉サービス事業所のマップということで、地域を知ることの一つとして活用していただきたいと思うのですが、これから話し合いを始めて、「地域にはこういうところもあるんだよ」という情報も出てくると、その情報を集めてこのマップに表示していくこともできるようになると思っていますので、普段皆さんが活用されているところの情報を出し合うことで形になって見えてきます。そうしますと課題を含めて今後どういうふうに話し合っていけばよいかも見えてくると思います。本日は全サービス種の配布はありませんが、データ上では作成しています。以上になります。

○森部会長

はい。ありがとうございます。これは●●で作っているのですか。

○佐々木事務局員

そうです。

○森部会長

これを皆で見られるようにするときの課題はありますか。

○佐々木事務局員

本日公開しているものはこの地図を作成するためだけにアカウントを登録したものです。このアカウントを皆さんに開示することは問題ないと思います。

○和田事務局員

恐らく障害福祉サービスの情報そのものは、ワムネットや精神分野の方はリムラットにはこのようなマッピング機能がありますが、インフォーマルなものを入れていくとなると手作りしかないと思います。

○森部会長

例えば、それを活用すると、「自分のお家があるからその周りがあるインフォーマル資源が調べられる」みたいなこともできなくはないということでしょうか。

○佐々木事務局員

できると思います。

○森部会長

例えば避難場所も入れてもらって、災害時はここに避難とか、近くのスーパーなど必要なものを入れ込むとか。

○佐々木事務局員

そうですね。

○森部会長

地図を見ていただいたところですが、これに関してご意見、ご感想をいただけたらと思います。関口さんからよろしいでしょうか。

○関口委員

自分が相談支援事業所を探したいと思ったときに便利だと思います。何に悩んでいるかわかりづらい人が、相談を受けた後この地図を見ると自分の選択するものがわかりやすい。自分の家からこのくらいの距離とか、子どもを預けるとなった時に、大震災などが起きたときに迎えに行くのに、避難する場所が分かっていたら自分の住んでいるところの近くを

探します。うちの子どもは通所施設に通わせているのですけれども、何か起きたときに幹線道路が動かなくなるということで、迎えに行くことができないということから何年前かに地区割制になって、本当はAというところに通わせたいけれども、そういうことを考えて動きの取れる範囲に通わせることになりました。距離とかをみるのは住所ではなくマップだなと思いました。以上です。

○森部会長

はい。ありがとうございます。山本委員お願いします。

○山本委員

障がい福祉センター山本です。地図というビジュアルにしましたので、関口さんのおっしゃったことと一緒にになってしまいますが、まず自分がどこに住んでいるというところに目が行って、その近くに「あそこがある」という活用の仕方になると思います。さらにそこは何をやっているかとか規模とかになりますと紙ベースでは限界があるのですが、スマホやタブレットでその数字のところを叩くと下位の情報が出てくる、そういう活用もさらにしていただけたらと思います。

○森部会長

はい。ありがとうございます。それでは中出委員お願いします。

○中出委員

はい。あいのお相談センター中出です。クリックして出てくるところでは障がい当事者の方たちがご自身で探しやすい、見つけやすいのではないかと感じました。法人内生活介護施設でも活動の取り組みとしてご自身の生活を考えると、勉強会などで社会資

源を知るという取り組みもしていますので、その中で、自分自身で「自分のうちがここだ、この回りにはどんなところがある」とか、「普段使えるヘルパー事業所がどこにある」とかクリックして見られるという活用ができるのではないかと思います。以上です。

○森部会長

はい。ありがとうございます。続いて青木さんお願いします。

○青木委員

はい。うめだ・あけぼのの青木です。いきなり発展形ですが、こども発達支援事業所ネットワークさんが児童発達支援事業所の一覧を作成しているのですけれども、既にあるものと繋いでいくということで、例えばこのマップで「こういうところが家の近所にあるよね。」と言ってクリックするとそちらのデータに飛んで行って、事業所がどんなことをやっているか、どんな特徴があるかというのが分かるようになっていて、保護者の方、ご家族、私たち相談支援専門員が、お話しするときに家との距離感とか、そういうことも含めて視覚で確認できるというのは良いなと思いました。足立区に転入されてきた方や、足立区に長いこと住んでいて幼稚園も中学校も高校もこのエリアから出たことがないので全く他のエリアのこと知らないという人がいらっしやったときに、地名だけが使われるのではなくて、「このエリアは自分が送迎するのにちょっと難しいかも」とか、そういうところも含めて見られると良いのと、相談支援専門員と事業所の新規参入してきた方あるいは初心者マークがつく方で、「実は足立区のことをよくわからないけれども事業所として開所します」という方たちがいたときに足立区の地理感的なところを含め、こういったもの

で共有して利用者の方との縁ができるというのは、相談支援専門員の初心者スキルの向上や正確な情報提供にもつながると思うと、是非こういうものが共通したツールになっていくと良いと感じました。是非、直近で、移動支援事業所探しでどこをどう見ても連絡先が見つからなくて大変な思いをしたので移動支援の事業所もお願いします。

もう一つ夢の実現としてということで、医療的ケアのお子さんを受け入れているといった情報も網羅された情報になったら良いと思いながら拝見させていただきました。

○森部会長

はい。ありがとうございました。では石井委員お願いします。

○石井委員

佐々木さんよろしいでしょうか。大変よくできているのですが、「障がい者のしおり」に載っているところから拾った情報で、落ちている情報がありますよね。例えば私の近所に「谷中ハウス」というのがあるのですけれど、プロットしているのが違う場所にあるのです。

○佐々木事務局員

基本的には住所情報と事業所情報が別にあるのでそのデータを使ってこの地図に落とされています。「障がい者のしおり」から直接引っ張ったわけではないです。後は、まだ●●マップの使い方が不十分で、住所情報を入れているのに違うところに出てきてしまうという現象が出ておまして、今回皆さんに提示するうえでは抜けているものをなるべく入れ込むようにしたつもりですが、全部はできていません。あるはずのものがマップ上にないという現状はあるかと思えます。これについ

ては時間を使って1つずつ精査していけば正しい情報になると思っています。

○石井委員

そういうことであれば大丈夫です。落ちているものがあるから気になったので。ご家族は「障がい者のしおり」をもらうと思うのですよ。地図にあったほうが余計分かりやすいので。素晴らしいと思います。

○佐々木事務局員

これから確認作業をしていきます。

○森部会長

はい。ありがとうございます。続いて小杉委員お願いします。

○小杉委員

資料ありがとうございます。情報が視覚化されていてとても見やすいと思いますので非常に活用しやすいかなという印象を持ちました。相談支援事業所マップなんかを見ますと割とまんべんなく相談支援事業所があるのではないかなど。例えば相談支援専門員、専門分野はありますけれども計画相談のこととか福祉サービスのご相談をいただいたときにこういったデータを使ってつなぐことができれば割とどの地域の方も相談支援の活用ができるのではないかなど可能性としては感じた次第です。

○森部会長

何となく使いやすいツールみたいなものをご紹介いただいてもよろしいでしょうか。

○小杉委員

皆さんがやっているようにボタンを押したら空き状況が見られるとか、障がいの得意分

野が見られるとかという機能がついていくと使いやすいのではないかと思いますし、マップも広いのでエリアとかに分けられる機能とかついていると使いやすいのではないかという感じです。

○森部会長

そのような機能は簡単にできるのでしょうか。

○小杉委員

●●が頑張ってくれるのではないかと思いますけれど。

○森部会長

頑張れ●●ですね。では片桐委員お願いします。

○片桐委員

はい。カラーなのでとても見やすいと思いますね。事業所とかは精神とかは全て色々一緒ですよ。そういう区分けはしないほうが良いのでしょうか。

○佐々木事務局員

精神とか知的とか、そういう区分けでしょうか。今回ここに出ているもので区分けをしているものが一つだけありまして。グループホームです。

○片桐委員

はい。分かりました。ありがとうございます。

○森部会長

はい。ありがとうございます。谷内委員お願いします。

○谷内委員。

精神障がい者自立支援センターの谷内です。このマップを見たときに相談支援専門員の立場から見てとても良いと思っていて、私も区役所で販売しているマップを昔買って、そこにずっとヘルパー事業所、他の事業所を書き込んだりしたものを今も使っていて、もうボロボロになっているのですが、それもやはり自分が関わった事業所だけが加わっていくという形で、本来どこにあるのかなというのが分からないまま今に来ています。こういったような一覧ができるというのは相談支援事業所にとっても当事者の方にとっても地域の方にとってもあるに越したことはないと思います。地域の方から見たときにこれはどう活用できるのかなと思ったときにサービス別事業所別だと何が使えるかわからないというところで、ひとまずどこが相談できるのかなと思ったときに、相談支援事業所マップを見ると、家の近くに事業所がある、名前は下を見ればわかり、得意な障がいの分野はあるのだろうなと思いながらも行ってみようかなと、もしかしたら思うかもしれない。となると各事業所さんのマンパワーだったり体制だったりいろんな課題があると思うのですが、そこに足を運ばれた時に、まずはつながれる。後はそれをどう今後につなげていくか、繋がっていくかということが一つの肝だと思います。それは各障がいの別、事業所の規模というところでどうしてもできる・できないの差が出てくると思うので、高齢者の場合で言うと、地域包括支援センターがあるというところで、そこは地域全体で網羅できる場所はあると思うのですが、障がいだったり子どもだったりということも、地域包括ケアというところへの取り組みがなされているところだと思うのですが、やはりそこを目指していきながら、今ある社

会資源でそこをカバーしていく。いずれ障がい分野もそこに近づけていくところの動きは求められていると思いました。ただ、それまでにはまだ時間も体制づくりもあると思うので、何かしら各事業所さんが相談支援事業所に限らず、地域にあるいろいろな事業所さんが相談に来られた方がいたらどこにつなげたらよいかということを知ってなければならぬと思いました。

○森部会長

はい。ありがとうございます。

こちらを事前に少し見せていただいたので、所属の事業所の方で、「こんなものをあしすとさんが作った」と共有しました。去年見学に来ていただいた方はご存じかもしれませんが、私の事業所では、1年間かけてポスターみたいな感じで手作りのマップを作っていましたので。こういうマップをうまく活用できると、A3版の情報についても、繋げられる方法を考えいろいろなものに紐づけられていく仕組みを考えていけると良いと思います。

○和田事務局員

精神分野の対象者別ですと先ほど申し上げたりムラットだと既に精神障がいの方を中心とした事業所を検索出来たり、東京都の医療ケアのサイトでも医療的ケアの法定研修が終わった方がいる事業所一覧を作っていたり、既にある情報を地図に落とすところは技術的には可能と思われます。さらに、必要な情報について、いろいろなところに働きかけて集めて、最終的に地図で伝えやすい形に、ある意味、あだちの里さんがポスター式でやっているように、事業所内また事業所間で共有し、口コミ情報も加えて埋めていくものが有効だと思います。福祉機器展でもベンダーさんが、地域単位でのマッピングや社会資源調査を売

りにしているシステムもありますので、この辺りは情報収集していきたいと思います。

○森部会長

はい。ありがとうございます。とりあえずここまで進んでいるという情報をいただいたので、今後はどのように進めていくかというところだと思うのですが、お時間も無くなってきているというところで、後2回ありますので、こんな表を盛り込んでいたらよいか、を皆さんから教えていただけたらと思います。この後、皆さん持ち帰っていただいて、事務局にこんなのはどうかと流していただくことはできますか。

○佐々木事務局員

私がこうやって作っているのは基本皆さんの意見をなるべく集約をして自分なりにイメージをして「このような感じでよろしいでしょうか」とお返ししているものになります。ですので皆さんからの情報がなければ形にならないというところがありますので、先ほどのA3横表の相談先一覧についても、こういうふうにすればもっと良いなど具体的なものの提案をいただければと思います。いただけないと進めないということがありますのでそこはお願いしたいと思うのと、地図のところに関しては、Web上のもので事業所情報を表記するということができるようになりますので、できる範囲の中にどれだけ書き込みができるかというところをやってみたいと思います。あわよくばそこから必要な情報に飛べると良いのですが、飛べなかったときにどういう情報がそこに入っていれば使いやすいのかについては考えてみます。

○森部会長

はい。よろしく申し上げます。この情報量

を入れようとする恐ろしいことになるような気がするのですが、よろしくお願いします。事務局から話のあった通り、事務局では皆さんから出された意見をまとめているところがありますのでご意見を頂けたらと思います。何か今これだけは伝えておきたいということはあるですか。

○関口委員

余談になりますが、私は足立区に越してきて23数年くらいになります。福祉なら東京ということで移り住みました。こういう地図が見られると、もっと便利なところに住みたかったと思います。足立区は広いので、肢体不自由の通所施設みたいなものも集中しているところと手薄というか不便なところもあるのですよね。全区的にはいろいろな資源があるものだと思います。

○森部会長

はい。ありがとうございます。本当にそうですね。エリアによってないサービスがあるから、こうやって地図にしてみるといろいろ偏っていますよね。

はい。ありがとうございます。それでは申し訳ないですが、戻られてからじっくり見ていただいて、「こんなところがこういうふうになったら良いな」とか、「こんな相談を受けているのだけれども、どこに繋いだら良いのかな」など、を事務局あてにお寄せいただけたら手直しをしてくださるということです。よろしくお願いします。

本日確認する内容はここまでですので、後は事務局の方へお返しいたします。

○佐々木事務局員

はい。今日はいろいろとご意見をいただきありがとうございます。なるべく使いやす

いような形になるようにしていきたいと思えますので、是非ご意見をいただきたいと思えます。今日のご意見もかなり参考になりました。これは皆さんの会ですので、この後できあがっていくものが成果物として、相談支援部会として報告できることが一つの大きな目標になろうかと思えます。引き続きご協力をお願いいたします。

事務局連絡になりますけれども、次回の開催です。次回は9月21日木曜日の2時からということで、今日と同じ会場で開催させていただきたいと思えます。今年度は年に3回ということで、これは他の部会の開催回数と合わせる形となっておりますので、回数は減ってしまったということで、議論の回数は減りますので、これからまとめをしようというときに回数が減ってしまって申し訳ないところではあります。回数が減った分、メールにて、ちょっとした集まりですとか、小グループの活用みたいなのも含めて形にするところまでのご協力をいただきたいと思えます。ですので、この3回に限らずご協力いただきたいということです。9月21日のところでは改修したものを皆さんでご議論いただき、12月13日のところでは、まとめの作業に入っていければと思えますのでよろしく願います。今後も室内環境も整えながら今後も進めていきますのでどうぞよろしくお願いいたします。では、以上を持ちまして第1回目の相談支援部会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

以上